

# 熊本地域医療

当院HPは  
こちらから



# センターだより

院長 杉田裕樹

令和6年(2024年)7月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222  
〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号 <https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp>

2024 7 通算230号  
月号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。  
そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。

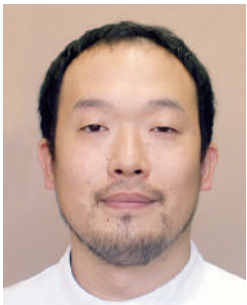
## contents

わかりやすい診療部紹介 ~呼吸器内科~	… P1~2
わかりやすい部門紹介 ~臨床研究部~	… P2
新任挨拶	… P3
ステップアップ研修報告	… P3
(3rdG:Ver.3.0、一般病院2)に認定されました	… P4

## わかりやすい 診療部紹介 Ver.3

## ~ 呼吸器内科 ~

呼吸器内科 <sup>つむら</sup>津村 <sup>しんすけ</sup>真介



いつもお世話になっております。熊本地域医療センター呼吸器内科およびアレルギー内科の津村です。

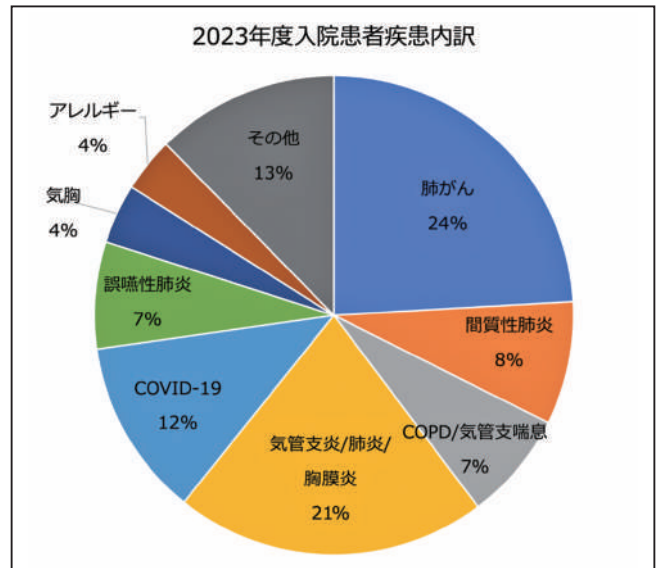
さて、当院呼吸器内科はこの春ひとつの時代の節目を迎えました。2023年3月で当院へ10年勤められた柏原光介副

院長が定年退職されました。さらに近年は非常勤の立場ではありましたが、1982年から長きにわたり地域医療センターで診療をしてこられた千場博先生も当院での外来を完全に終了され、退職されました。代わりに、熊本大学より木村俊貴先生に新たに赴任していただきました。

当科の入院患者数は長期的には伸び続けており、2013年度までは年間450例程度であった入院患者数は新型コロナウイルスの流行もあり、2021年度には890例を記録しました。コロナの入院数減少もあり多少減りましたが2023年度も818例でした。常勤医が2名から4名に増えたことが最大の理由と考えま

す。医師1人あたりの受け持ち症例数は中核病院の呼吸器内科ではおそらく県内トップクラスのはずです。もちろん三次救急病院とは重症例や希少疾患の数が違いますので自分達が一番忙しいとは申しませんが、頑張っている数字だと思います。個人的にも呼吸器内科だけでなく、成人アレルギー外来も開設させていただき、毎年少しずつではありますが、新規でご紹介いただく数は増え続けています。

しかし医局人事により2024年度は一名減員となります。新型コロナウイルス感染症が流行してからは周囲の皆様からのニーズに応えられないことも多くなってきましたが、残念ながら2024年度はそれがさ



らに顕著なことになりそうです。ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

2024年度からも当院の売りは変わらず、気管支鏡における診断、治療、喘息・成人アレルギー診療においては県内随一を自負しております。特に気管支鏡を用いた治療についてはこの40年ほど、一子相伝のようなかたちで技術、経験の伝達、蓄積があります。肺がん診療についても、緩和ケア病棟も併設しており、緩和ケア科の安部英治先生のご協力もいただきながら、診断から終末期のケアまで一貫しておこなえるのは利点だと思います。もちろん肺炎や気胸、間質性肺炎などの他の呼吸器疾患も診ており、ありふれた症例の日常診療をこそ、しっかりと診療することを心がけているつもりです。

また、当院では熊本県内で唯一、気管支鏡を用いた重症喘息治療である気管支サーモプラスティを行っています。これまでに14例の治療を終えており、これも九州内では最多に近い経験数です。著効する患者さんには素晴らしい改善効果を得ることができる治療ですが、残念ながら機器製造企業の都合により今年度までで施行できなくなってしまいます。対象となりそうな患者さんがいらっしゃいましたらお早めにご相談ください。

これまでの伝統で培った良いところは受け継ぎ、積極的に新しいものを取り入れていくことで、日々向上していくことを目標とし、粛々と務めて参ります。これからもよろしく申し上げます。

## わかりやすい 部門紹介

### ～ 臨床研究部 ～

臨床研究部部长 ささはら 笹原 たかゆき 誉之  
臨床研究コーディネーター (CRC) いせち 伊瀬知 かずみ 一美



当院では2020年4月1日に臨床研究部が発足いたしました。現在、臨床研究部長、臨床研究コーディネーター (CRC) の2名で構成されています。新しい診断法や治療法を開発したり、既に確立さ

れた方法の確かさを検証したりするためには、様々な研究を実施する必要があります。研究には、「治験」「臨床研究」「医学系研究」など様々な呼び方があり、法律や指針によって細かく定義が異なります。

介入研究 (臨床試験) は、新しい医薬品や医療機器の候補になりそうなものとの比較が必要な時や、2つのグループで違う方法を試して効果を確認する必要がある場合などに、実際に人に試してみることから、「介入研究」と呼ばれています。薬剤の有効性を比べ、商品化が見通せる段階になると、

製造や販売に関する承認を得るために「治験」を実施します。

また、観察研究は人の身体から採取した血液や尿、皮膚などの試料を分析する実験やカルテ記録や質問調査用紙結果の分析などの方法で実施されています。研究参加者 (被験者) から得た試料・情報を分析して、その結果を観察するという特徴から、「観察研究」と呼ばれています。

当院では各診療科が様々な臨床研究に参加し、たくさんの実績を残しています。更に今年度からは、杉田院長の方針により患者さんの為・病院の質向上の為に「治験」を積極的に行う方針となりました。現在その為の準備作業を進めているところです。これからも被験者のみなさまに寄り添い、そして未来の患者さまの素晴らしい治療のためサポートしてまいります。今後もこれまで同様の指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



## 新任挨拶

事務長 <sup>いんどう</sup> <sup>かつや</sup> 犬童 克也



本年6月1日付で着任いたしました犬童克也と申します。事務長という大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。皆様のご期待に沿えるよう精進したいと存じます。

私の職歴を申し上げますと、平成10年から平成26年まで熊本市内の会計事務所に勤務しておりました。会計事務所では、様々な業種の企業に毎月出向き、業績報告や資金繰り助言等、一言で言えば「企業経営者の相談相手」をしておりました。その後ご縁があって、平成27年にくまもと森都総合病院に入職し、経理課（月次収支の取り纏めや決算、事業計画策定等）、庶

務課（給与・人事等）を経て、最後は事務副部長として本年5月末まで勤務しておりました。経理・財務を中心に仕事をしてきましたので、それ以外の分野では、皆様に色々とお尋ねすることがあるかと思えます。その際にご教示いただけると幸いです。

さて、熊本地域医療センターは病院建て替えに向けて準備中と聞いております。病院の歴史の1ページを刻む大事業に少しでも携わることができると期待して参りました。

着任したばかりで、不慣れな点や至らない点があるかと思いますが、少しでも早く貢献できるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和6年度 第1回 ステップアップ研修報告

### 標準予防策と経路別予防策

#### ～ 疥癬患者の対策事例 ～



感染管理認定看護師 <sup>ながお</sup> <sup>みすず</sup> 長尾 美鈴



認定看護師による公開研修も、今年で3年目となりました。今回は、疥癬患者さんの事例を通して、標準予防策と経路別予防策を振り返る機会としました。多くの医療機関・施設から申し込みがあり、疥癬対策の

関心の高さと対策に難渋されていることが伺えました。経路別予防策は、基本を理解していても感染症の特徴を知らなければ正しい対策はできません。また、成功事例だけを知っていても、現場に活かすことはできません。成功も失敗も知ることで、次の成功に繋がります。私は、昨年初めて角化型疥癬の患者さんに対応し、事例を通して多くの学びがありました。この学びを地域の方と共有

することで、疥癬対策の一助になればと研修を開催しました。

疥癬は、ダニの一種である疥癬虫（ヒゼンダニ）が人の皮膚最外層の角質内に寄生することにより発症する皮膚疾患で、激しい痒みを伴う接触感染の感染症です。ヒゼンダニの特徴・弱点を理解することで、正しい接触予防策が実施できます。ヒゼンダニは、落屑内に多く存在し、物理的に落屑を取り除くことが治療の一つで、スキンケアと感染対策を同時に行う必要があります。そのため今回は、皮膚・排泄ケア認定看護師が「疥癬患者のスキンケア」に関して研修を開催します。多くの方の参加をお待ちしています。最後に、アンケートにご協力頂いた方、皆様の経験を知ることができました。有り難うございました。

## (3rdG:Ver.3.0、一般病院2) に認定されました

病院機能・患者サービス向上委員会 委員長 **あべ えいじ** **安部 英治**



当院は2018年3月2日付けで病院機能評価(3rdG: Ver.1.1、一般病院2)に認定されました。このたび、新型コロナウイルス感染症への対応の最中ではありましたが、病院全体の協力を得て業務の質改善にとりくんだ結果、2024年3月に病院機能評価(3rdG:Ver.3.0、一般病院2、審査体制区分3)に認定されました。受審準備や訪問調査の過程で、今後「当院がすべきこと」とともに現在の「当院のよいところ」を認識することが出来ました。

2024年3月時点で、認定病院数は2,035病院、当院と同じ一般病院2のカテゴリーでは965病院が、病院機能評価認定を受けています。当院としては最新の3rdG:Ver.3.0を受審することで「病院をよりブラッシュアップすること」を目指しました。書類再審査を何度か要しましたが、それを乗り越えられたのもひとえに杉田院長をはじめとして職員全員が「自分たちが勤務する

病院の質をよりよくしたい」というモチベーションだったと思います。

今後も時代の流れに対応しつつも病院理念に基づいた医療を提供していくよう全職員で努力していきます。

職員の皆様、本当にお疲れさまでした。そして会員の先生方、今後とも患者様のご紹介よろしくお願いたします。



## 熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2024年7月22日(月) 19:00~20:00

形式/ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加  
オンライン参加: ZOOM 会場参加: 2階多目的ルーム

申し込み方法/ [kumamotochiiki@gmail.com](mailto:kumamotochiiki@gmail.com) (※1) までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。  
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

(※1)メール作成用QRコード



### ①症例報告

『下部直腸悪性狭窄に対して proximal release 型大腸ステントを留置した2例』

消化器内科 岩下 博文 医師

### ②特別講演

『日常生活動作 (ADL) の低下を有する消化器癌患者の特徴とリハビリテーション、低侵襲手術の可能性』  
CC10: チーム医療

外科 美馬 浩介 医師

## 熊本地域医療センター

☎096-363-3311 (代表)

■紹介や転院調整はこちら  
※地域医療連携室師長が対応いたします。

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

## 編集後記

Y 6月に熊本城ホールで開催された日本抗加齢医学会では、「老化は病気」だとして、生物学的な年齢を計る時計(老化時計)とか、老化時計の進みを遅らせたり、逆回転させたりする方法も話題でした。「見た目の若さ」も結構参考になるそうです。若づくり、若づくり。

K ジメジメとした梅雨の季節。コインランドリー代の節約(行くのがめんどくさいのが本音)のため室内乾燥機を購入。ありとあらゆる部屋に鈴なりというかのれんのように洗濯物が吊るされる始末。お宅訪問はお断りをお願いします。

H The 梅雨! というような天気が続いています。原付通勤の為、毎日雨に打たれながら通勤していますがだんだんと慣れてきました。梅雨が終われば、例年猛暑が待っていますが、今年はどうでしょうか。